

【全国学力・学習状況調査結果】

	自校	尾道市	広島県	全国
国語	82	67	67	65.6
算数	76	63	64	63.2
理科	77	64	66	63.3

【全国学力・学習状況調査結果（質問紙調査） 『当てはまる』 + 『どちらかといえば、当てはまる』の％】

質問番号	質問事項	自校	尾道市	広島県	全国
39	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	85.5	73.5	76.2	77.3
43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	89.1	79.6	81.8	80.1

【課題】

国語科では、一部の条件に合わせて書くことができるが、すべての条件を満たして文を書くことや自分の考えや友達の考えを元によりよい納得解を書くことが課題である。算数科では、解決の見通しをもつことや、「量は比例するが、割合は比例しない」ことを理解できていなかった。理科では、問題文を読み取ることや結果から考察することに課題が見られた。



【めざす姿】

国語科においては、複数の条件に従って、一定量の文章を目的を明確にしながらかけることができる。また、話し合いをしながら協働的に学び、お互いの意見を尊重し合いながら納得解を導き出せる。算数科においては、見通しの段階で、答えがどれくらいになりそうか予想したり、「何を求め、結果がどうなれば答えはどのようなのか」という見方をもって問題に取り組んだりする。理科では、結果から一人一人が考察し、友達と考察と比べながら、自分の考察を吟味し、試行錯誤しながら考察を導き出す。

【これまでの授業の課題】

国語科においては、複数の条件に合わせて一定の文章を書く機会が少ない。算数科では、見通しの段階で、「もし、～数字がだったらこうなる」という時間を取れず、学力の高い一部の児童の発言により授業が進み、学力が低い児童が問題を十分に理解できていないまま問題解決の時間に入っている。また、集団解決の場面でも、一部の学力の高い児童の発言で授業を進めている。理科では、まとめから考察の段階で、自分の考えを十分にとれていない。



【今後の授業の具体】

国語科においては、モジュールの聞き取りで、複数の条件で文章を書く。算数科では、見通しの段階で、答えや解決の方法の見通しをもたせるなどの問題解決の目のつけどころ（見方）を考え、児童全体が解決の見通しをもてるようにする。また、集団解決の場面では、つまづいている児童の考えを取り上げたり、誤答を取り上げたりしながら、すべての児童が理解できる授業をめざす。理科では、①全員に自分の考えを書かせる。②友達と話し合い、自分の考えを修正する。③さらに自分の考えが深化したことを実感できるように評価する。を意識して授業を行う。